大宮通信

大宮中学校　学校だより
第133号　2026.11.2

目立たなくても　大切な意味が

先週の後半から、ずいぶん涼しく、寒くなってきました。北日本では大雪が降っている地域もあるようです。11月に入り、秋もどんどん深まっていきそうです。

今日は生徒会役員と、後期専門委員の認証式を行いました。生徒会役員は、これまでは半年ごとに改選していましたが、今回からは1年間の任期となります。じっくりと活動を進めることができます。皆さんが楽しく過ごせる学校づくりをめざし、活躍してください。各学級で選出された専門委員のみなさんは、学校を作っていく活動を、責任を持って進めていく立場になります。学級の係活動も、よりよい学級を作っていくために、欠かせない役割です。

さて、話は変わります。「雑」という漢字から、皆さんはどのような言葉を連想しましたか。全校朝会では、「雑草」という言葉を用いてお話を始めました。

「日本植物学の父」と言われる牧野富太郎氏はある日、野原に広がる草を見て「雑草」と呼んだ友人に、「世の中に“雑草”という草はない。どんな草にだって、ちゃんと名前はついている」と言ったそうです。

「雑」という言葉がついているからといって、価値がないわけではありません。私たちがよく知らないだけで、そこには大切な意味や役割が隠れていることもあるのです。雑草だと思っていたのに、調べてみたら薬草だった、ということもあるのです。

「雑談」はどうでしょう。大した中身のない話をしているようでも、話し相手の考えていることや本当の気持ちが垣間見えることもあります。

「雑用」という言葉もありますね。毎日繰り返す小さな仕事でも、新しい発見ができるかもしれません。その仕事をあなたがしなければ、みんなが困るかもしれません。

皆さんが果たす役割には、すべて学校には欠かせないものです。後期の生徒会活動のスタートにあたり、一人ひとりが自分の役割に責任を持ち、学校全体をよりよくしていってくれることを期待しています。

おめでとう！

○ パソコン部、家庭科部　第35回大阪市立中学校総合文化祭において表彰
○ 吹奏楽部　旭区PTA協議会　中学校生徒表彰